

第6回とくち佐波川かわまちづくり協議会議事録

日 時 令和5年2月6日(月) 10:00~12:30

場 所 徳地文化ホール2階 会議室

【出席委員】

会長(徳地地域づくり協議会)	板 垣 幸 男
副会長(出雲地域づくり協議会)	吉 松 桂 二
関係自治会を代表(須路下自治会)	藤 本 達 也
徳地中学校PTA	友 景 太 一
徳地商工会(青年部長)	則 安 聡 一 郎
シニア山口(山口市老人クラブ連合会)徳地支部	山 本 清 作
山口市連合婦人会 徳地支部	藤 昭 子
山口観光コンベンション協会徳地支部	池 田 大 乗
佐波川漁業協同組合	中 島 伸 廣
徳地ふるさと資源活用協会	北 川 武 典
とくち夏祭り花火大会実行委員会	野 村 新 一 郎
とくち行って美夜実行委員会	安 田 紀 之
一般募集	有 近 隆 司

【欠席委員】

島地地域づくり協議会	松 尾 富 美 子
中央小学校PTA	栗 屋 浩 一 郎
徳地地域協育ネット推進本部	西 村 和 茂
山口市民生委員児童委員協議会	藤 井 初 代

【事務局】 徳地総合支所 土木課

【オブザーバー】 国土交通省

【次第】

1 会長挨拶

2 前回の振り返り

3 本時のねらい

4 展開

(1) 各グループの計画案について検討

- ① 計画案の展示
- ② 各計画案について説明
- ③ 各計画案について質疑応答

(2) 連絡事項

- ① 協議会の活動報告について
- ② アンケート調査について
- ③ その他

【議事録】

2 前回の振り返り

A委員

今日の会議の進め方について話をしていきたい。第3回からは、ご存知のようにかわまちづくりの計画立案を進めてきている。徐々に徐々にではあるが、みなさんの思いも具体化され、文章にまとめてきた。今回からは、更にまとめたものを地図上に描いたりというところまで来ている。この前の第4回目の時は、金子さんに来ていただいて、防府の現状並びにいろいろな課題とか、徳地にとって重要なこと、いくつかの試算等の話もしてもらった。例えば、やっぱり楽しくないといけない、ワクワク感があって、やりたいという思いを出し合うことがいいという話があった。修行僧のように、修行という厳しい面持ちで進めていくというよりは、楽しく、ワクワク感をもって、皆さんのいろいろな思いを計画に反映させていこうではないかというのが一点。それから、ここには、われわれ住民、それから行政サイド、国や市から来ていただいていて、3者がそれぞれの立場で、お互いに意見を言い合って、そしてそれを尊重しながら、お互いに理解しあって作っていこう、それが大事だという話があった。もう一つは、子供の思いを大いに反映させたらどうかということ。防府市では、子供に向けてのアンケートをしたというのがあった。そういった中で、子供ならではの、思いもかけないいろいろなアイデアが出てきたので、そういうものを反映させていこうではないかということがあった。それともう一つ、住民が当事者意識を持つということ。我々はいろんな各団体の代表として集まっているが、背後には団体を構成する人たちがいるし、また徳地町民がいる。そういった方々に当事者意識を持ってもらうにはどうしたらいいか。具体的には、アンケートをするとかいう形でご意見を反映させようということがあった。こういったことをお話いただいた。それからもう一つは、皆さんの要望で、具体的な例を出してほしいということで、国交省の方から2点出していただいた。この前の資料で、和気町かわまちづくりという資料と、益田市かわまちづくりの2例が出ている。実は我々が目指しているのはここである。これが完成形である。この中に、ハード面と言えるもの、あるいはソフト面と言えるものがまとめてある。それで、皆さんに、私がまとめた、A4の横にハード面とソフト面と書いてある資料をお配りしている。ハード面というのが、国あるいは市が行う事業に当たる。ソフト面というのが、我々が広場などをお願いして作ってもらって、そこでどういう取り組みをするか、どんな利用をするかというものをまとめたものである。先程のこの二つの場所、和気町と益

田市の資料の中の、具体的にハード面に当たるもの、ソフト面に当たるものを、この表にまとめたという次第である。今、我々がやろうとしているのは、そのソフト面の中の住民と書いてある所。和気町と益田市、それぞれの住民が取り組みたいこと、こういう利用がしたいということが書いてある。これは、あくまでも三社がいろいろ協議をした上で取捨選択をし、実現の可能性のあるものがここに出てきているのではないと思う。我々はこれを今やろうとしている。今日、この後それぞれのグループで発表をしていただいて、質疑応答する、市や国の意見を聞く、そういった中でよりまた実現性を高めていこうとする作業をしていくわけだが、その行きつく先がこれである。和気町と益田市の例に当たるわけである。我々はここに持っていかうとしている訳である。これが出来ないことには、我々の要望に依って、市あるいは国のハード面の計画が出てこないと思う。だから、しっかりと我々はまさに当事者意識を持っていろいろな要望を出したい。そして、まさに、楽しく、ワクワク感を持って要望を出していきたい。夢でもいいと思う。ただし、その中から当然、取捨選択はされていく。そして、その一番右のところが空白になっている。ここに、和気町とか、あるいは益田市と同じようなものが書き入れられて、それがこの資料にまとめてあるような形になっていけば、完成である。この前、国交省から出していただいた事例は、実は我々がやっているのはこういう方向にあるというための事例であった訳である。

3 本時のねらい

A委員 次第の「展開」を見てほしい。「展開」のところの「各グループの計画案について検討」に75分も時間をとっている。掲示してある、それぞれのグループから出していただいた絵、これを皆さんによく見ていただき、そしてご説明もいただき、質疑応答もし、さらに実現可能性のあるものに高めていこうということで、75分という時間を割いている。これが今日のメインとなる。まさに計画立案の第3コーナーあたりにきているということをよく自覚していただいた上で、今日の取り組みに参加いただけたらと思っている。

4 展開

(1) 各グループの計画案について検討

① 計画案の展示

A委員

ここ(ホワイトボード)に計画案が展示してある。まだ展示したいものがあれば、それを加えて発表をしてもらいたい、とりあえず皆さんには、各班がどんな計画を立てているか、ここに来て見ていただきたい。今日は、各班にこだわるのではなく、全体を見てほしい。他の班のものも見てほしい。共有化。みんなで共有化しようと考えているので、ぜひ自分の班にこだわらず、他の班もよく見てもらって、後の質疑応答に役立ってほしいと思っている。それで、私は、やはり全体を見渡すものがなければいけないと思って、立体地図を作った。我々がやろうとしている3箇所というのが、徳地のどういう位置にあるかということを立体的に示してみた。この地図の中の、青い丸を打っているところがこの場所に当たる。そして、赤いところがそれぞれの3箇所に相当する。これは俯瞰図という。鳥が上から俯瞰して見るような形になっているので、鳥になったようなつもりで上から見てもらって、どういう位置にあるのかというところで、またいろいろ思いをめぐらせてもらって、こんな場所にはこういうものがほしいということを考えてほしい。この立体地図も見ながら、各班の図をしっかりと見ていただきたいということで、10分くらいとっている。漠然と見るのではなく、何か問題点はないか、ここはよいというところも発見してほしいと思う。

(各自、展示されている各班の計画案の確認)

② 各計画案について説明

③ 質疑応答

A委員

それでは、各計画案について説明をしてもらいたい。ここでは、掲示してある地図だけに限らず、お手元にいろいろな資料を用意してあればそれも活用いただき、皆さんによく理解していただけるような説明をしていただけたらと思う。

【A班】

B委員

なかなかメンバーが揃うことがなかったので、もっと意見を集めたくていろいろな人に意見を求めてまとめた。掲示してあるのは、北野橋佐波分校付近。皆さんも感じているかもしれないが、ものすごい可能性のある地域だと思っている。この会でつくづく思ったのは、徳地は佐波川を中心に町ができていくということで、ぜひこの会でしっかりしたビジョンを作り上げて実現することによって、将来の徳地ががらっと変わってくるような感じがしている。この中のゾーンを考えると、今回の北野

橋周辺の川を中心としたところと、その隣の佐波分校は実は2年後に廃校となってなくなる。ここが地域に開放されたり、いろいろな形で使われるのかどうかというところが分岐点になると考えている。それからもう一つ、佐波分校の学校林や北野神社がある。こういったものが全部使われると、どんなにすごいところになるだろうか。今から申し上げるアイデアは、何もここだけではなくて、出雲合橋、合流点あたりの方がむしろいいものが出てくるかもしれない。でも、アイデアが出てきたものは、皆さんにざっとご紹介させていただきたいと思う。中身はこれを見てもなかなかわからないので、ここだけをクローズアップしてみた。ここにどんなものをおくかという、ここは入り口というか、ご存知のように徳地インターから直行道路が作ってある。なぜかと思うぐらい良い道が佐波分校に向けて出来ている。そこからこの北野橋までちょっとクランクになっていて、北野橋が残念ながら狭くて2台が離合出来ないのが、拡幅してほしい。ここに観覧スペースにそのままできるようなところがすでに堤防の下に出来ている。この辺りはホテルがたくさん出るので、やりようによってはいろんなことが出来るのではないかと思った。それから、橋を渡ってすぐ下に降りるようになっている。この辺は、僕が何十年前前に子供とよく遊んでいたが、あの頃の姿は全くなくなって、ひどい状態になっている。あれが復活するだけでもずいぶん違う。今回、例えばインドネシアの事例を写真で紹介しているが、流れるプールを作る。それから、他の地区でもあったが、天然の芝を植えるといういろいろなことに使える。河原も復活したい。あと、鮎とかカニとかの水生生物は、佐波川の漁協組合にもご協力いただいて、ヤナをここにすると、直接モクズガニとか鮎とかのつかみ取りで遊べる。あと。ビオトープで遊歩道とかベンチとかつくといいと思う。それから、やっぱり東屋とかテーブル、ベンチ。これは、外でやる卓球台とか、テーブル代わりの卓球台を設けている公園も全国各地にある。当然トイレもここにあった方がいいと思う。洗い場、水回りとかキッチンとか、シャワーなんかもあったらいいと思う。あと、キャンプ。キャンプファイアーをここでやっていいかどうか分からないが、佐波分校が使えると、広大な駐車場もある。実はここで花火を去年挙げた。今は徳地5地区全てで花火を挙げるといって、そういう町になりつつあるので、そういう他の地区との繋がりも、花火を通じてできるかなと思う。それから、テントサウナを作ったり、簡単なキャンプが出来たり、浅いプールなんかもアイデアとして出てきた。来週あたりから、学校林を伐採して綺麗に整備し、地域探求の授業を始める準備をしている。三菱未来財団から3年目の補助金を取る計画の申請書を学校側で

書いている。国交省の範囲の佐波川と竹林が繋がっていて、ここをうまくやれば、例えばここが映画のロケーションの場所になったり、散歩、タケノコとり、ハンモックとか、結構竹林は観光スポットになっている。今説明したものを、ビジュアルに説明していく。高津川漁協のホームページを持ってきた。これはモクスガニ。カニ汁は徳地のカニ汁とは少し違う感じだが、実は、12月にユーチューバーに来てもらって徳地のカニ汁を映像で取ってもらった。今、灯があったり、コンサートをやったりできる竹林を作ろうと頑張っている。これは、堀で花火をやったときの写真。これは、宇部のバンドフェスタのチラシで、去年11月にやっている。もしこの辺の竹林が整備されたら、いろいろな活動が出来る。それから、徳地の歴史と結びつけたいということで、これは東大寺サミットで配布されたチラシだが、岸見の石風呂は移動させる訳にはいかない。そしたらテントサウナをやるという感じである。去年か一昨年になるが、商工会青年部の人たちが、重源のいかだ下りをした。やると大変だが、今はシティシップというのがある。佐波分校の裏は流れが急なので、やっていいかどうか分からないが、こういうのもある。それから北野の神社。最近3年間ぐらいやっていないらしいが、裸坊がでる。これはお神輿と尾綱代と両方ある。インドネシアの流れるプールは、川の端っだけをコンクリートで張ったら、安全に子供たちが遊べる。それからこれは、オランダの公園遊具でネットの中で遊ぶもの。それから、さっき芝生と言ったが、芝生を張らなくても、キッチンカーが入れるようなスペースを作ると、いろいろなイベントが出来る。その他、観光協会だけではなくて、我々の仲間でも東大寺サミットを盛り上げるためのイベントをずっとやってきた。こういったこともやれるのではないかなと思った。佐波分校が、観光庁が言っているDMOのような機能を果たすようなところになってきたら、すごいことになると思う。全国的にも有名な市町村になるのではないかなという可能性も出てきたと思う。こういう想像をたくましくすれば、可能性がすごくあるゾーンである。川の外に、廃校になる大きなキャンパスがあり、こっち側に行ったら、竹林や北野天神様。こういったところで、今、実際に地域の人がいろいろなことをやっていて、ここ3年間はやれていないが、これが復活してどんどんやっていったら、ハチャメチャ楽しい。それで、これをマネジメントする施設として、佐波分校を拠点施設とすれば、すごいことが出来る。観光庁が大風呂敷を広げたようなイメージ図を書いているが、こういうのをやりたい。

C委員 DM Oとは何か。

- B委員 日本語にしたら、デスティネーションマネジメントオーガニゼーション。観光地域づくり法人。いろいろなところと結びつけてそれをマネジメントするとか、そういう拠点施設になる。この考え方は、観光庁だけでなく、文化庁も文化と観光を一緒にしようとしている。自分は、地域教育ネットの会長もしているが、その考え方も全部一緒である。
- A委員 大変夢のある話を楽しく聞かせていただいた。佐波分校と向かいにある竹林を中心とした話で、今実際に取り組んでいるいろいろな事業、既成のものがあるというのが大事である。それから、これをやりたいというのが出てきた。これが大きいと思う。しかも継続性があると思う。
- D委員 DMOについて検索する方法があるのか。この計画は、インターネットに載っているか。
- B委員 観光庁のホームページに載っている。観光庁で検索したら出てくる。
- D委員 すごく役に立つのではないかなと思う。これをもし府県レベルでも取り上げることになったらまた違うと思う。
- B委員 今ここには、国と市、そして地域がいる。足りないのは県。佐波分校は県なので、国、県、市、地域が全部一緒になってやれるところということで県に12月に提案したが、まだまだ何も決まっていない。
- E委員 多分佐波分校に関しては、このかわまちづくりと並行してやることになると思うが、窓口は県教委の指導課が1本でやっている。その辺のことは、藤田課長のところにどういう状況になっているかという情報は来っていないか。
- 藤田課長 12月に、皆さんが市へのお願いということで来られて、村田次長から話をさせていただいたと思うが、市の方も話を聞いて、直接教育長の方へコンタクトは取っている。教育長も、まだその方針決定がされていないので、今後の展開によっては市への働きかけも出てくるということであった。今は地域の方から要望が県の方に出されているという段階で、今後、市も含めて、跡地とか、分校の今後の利活用についての話をしていく場ができてくるのではないかとと思っている。まだ直接具体的な話

にはなっていないし、こちらの方にも降りてきていない。

J委員 B委員が大変な事業をやろうという案を出されたが、だれがやるのかという気持ちになる。誰が引き次いでやるのか、窓口はどこになるのか。だから、ここでNPO法人を立ち上げて、そこを窓口にして受け止めていたら実現できると思う。なんにもなくてこのままの状態で行うとしても絶対出来ない。徳地には、八坂に村づくり協議会のNPOがひとつあるが、他には何にもない。だから、出雲で立ち上げたらどうか。これがスタートした頃には、もう法人が立ち上がっている状態にしておかないとあとが続かないと思う。

E委員 言われるとおりだと思うが、ノウハウというかやり方、やり方はいろいろあると思うが、そのノウハウを知っているものがこの中にはいないのではないか。

J委員 八坂でも出来たのだから出来る。立ち上げて、事務局に話がきて、そしてお金が入ってくるようになれば、運営は非常にやり易くなる。そのものがなかったら全く役に立たない。

B委員 弱小だが、観光協会徳地支部には若い人がいない。若い人の貸し借りや、人的な支援、経済的な支援を本部はしないとされた。徳地の地区の人が、徳地支部を運営できなくなったら、なくして吸収すると言われた。そうしたら徳地へのいろいろな施策は、やらなくはないが・・・という感じだったので、徳地の人間を集めて頑張ると言って帰ってきた。とりあえずは、観光協会の徳地支部を核として、いろいろなことをやっていきたい。それだけで足りない時に、行政の窓口は地域づくり協議会なので、地域づくり協議会の力が絶対必要になってくる。J委員が、それではなくて別のNPO法人のような団体を作ったほうがやり易いと言われるなら、それもアリだと思う。どんなものでもいいのかはやってみないとわからない。

J委員 地域づくり協議会でこれを全部引き受けるというのは、事務局も一人しかいないし、大変なことになる。完全にオーバーワークで噴いてしまう。

B委員 観光協会も、年寄りばかりで自分が一番の若手だったが、若手はここ数年、定住促進課からお金をいただいてきたので、開拓して口説いて何とか形ができそうな感じである。青年部の若手もいっぱいいるので、なん

とかなるのではと思っている。

- C委員 NPOを作るとか、受け皿をどうするかという話を、山口市とか国交省に助言とかいただけないのか。手助けや支援ではないが、知恵とか、こういう方法があるとか、ノウハウとかを多分持っているのではないかなと思う。
- J委員 インターネットを検索したら出てくる。規約を作ったり、理事が何人とか、正会員と賛助会員を募るとかそういった形でやれば出来ると思う。
- C委員 設立というのは、そんなにハードルが高いわけではないのか。NPOに限らず、観光協会が中心にという話もあるが、いずれにしても、どこか窓口が絶対に必要になる。
- D委員 いろいろなイベントを実行するにあたって、いずれ業者が入るにしても、どこが責任を持ってくれるのかということになるので、答えられるNPO的なものがきちっとないと、業者までなかなか選定しづらい可能性はある。
- B委員 DMOというのは、そういう受け皿の組織である。いろいろなことをやるのに、いろいろな経験やノウハウを持った人たちが集まった組織ができるといいと思う。そういう意味でも、佐波分校に拠点を作ると、いろいろなことが出来るのではないかなと思う。
- D委員 今の、DMOとNPO法人との関わりとか、そういったことを早急に、もうちょっと具体的に詰めていく必要がある。
- B委員 ホームページを見ると、DMOとして認定される法人が観光協会であったり、新たにそういうNPO法人的なものを作っているところとかの一覧表が出ていて、いろいろな団体がDMOとして活動している。だから、そういうものを、例えば佐波分校の拠点を使うといろいろな機能が果たせるのではないかなということで、ずっとここ数か月間勉強会を開いてやってきたが、そういうものに地域づくり協議会であったり、商工会であったり、観光協会やNPO法人であったり、それが何になるかはわからないが、作ってやっていけばいいのではないかなと思う。

A委員 今、風呂敷だけ広げている状態だが、わずかな人数で地道に活動しているので、これをどんどん膨らませていけば、いずれはまとまったものという方向が見えてくるのではないかと考えている。とりあえずは、同意していただける方、がんばろうという方を集めて、いろいろな取り組みをしている段階である。

【B班】

C委員 A班の言われていたこととそう大きく違いはないと感じている。ある方は、現在の出雲合橋周辺のロケーションが、言葉は悪いが汚い、ガードレールにしても、草刈にしても、川の中にしても、もっと整備をして、いろいろな形で、もう少し見栄えのいいものに、人が集まりやすいようなものにしていく必要があるだろうと言われた。また、ある方は、徳地出身ではないが、徳地に来て日常生活で不自由することは特別ない、人があまり来ないので、とっても困るようなことももちろんない、でも、人口はどんどん減っていき、お店も減っていく中で、やっぱりこのままだとよくないので、こういうところを整理しながら、たくさん人が来たり、賑やかなまちづくりをするというのは大賛成だと言われ、そういう話で盛り上がった。B班は、出雲合橋のところ。橋も今回補強をされて、耐震もしっかり出来たということで、すごく安心であるが、ここがたくさんの人と交流ができるように整備されれば賑やかでいいし、私も高齢者支援という業務を行っているが、高齢者に対するものも出来たらいいのではないかなど、そういう話がどんどん出てきた。その中でいくつか具体的な事例が挙げられた。例えば、前回サイクリングコースをエリアで色分けをして、安全に通れるようにするという話があったが、サイクリングコースを作って、サイクリングが出来るような、健康スポットのようになるとか、それから、散歩。佐波分校のところからぐるっと回れるような形で、遊歩道ではないが、健康ウォーキングのようなコースを作るというのも、とてもいいことで大事なことであると思う。それから、ホテルがあそこは非常によく飛ぶというか、よく見られるところでもあるので、ホテルが観賞できる、ホテルも遠目に見るのでなく、身近に感じられるようなところに出来たらいいのではないかという話もあった。それから、具体的にはたくさんあったが、私が提案したいのは、今ドッグランが結構流行っているので、芝生を植えてもらって、犬が広場の中で走り回れるようなところにするとか、できるかどうか分からないが、そのドッグランの中にビオトープのようなものを作って、子供たちも一緒に遊べるようにするとか、さっき

流れるプールの話がでたが、こういうのも子供たちが賑やかに遊べるのではないかと思う。それから駐車場の件もたくさん出ていたが、今、旧総合支所の跡地のところが閉鎖になっているので、あそこを跡地利用として何かできるのではないか。例えばのり面とか、佐波川に行き来しやすいような導入路を整備してもらおうとか、芝か何か植えてもらって、芝スキーみたいな感じで遊べるようにするとか、それから花をたくさん植えて、冬になったら誰も来ないとかではなくて、季節感あふれる川の散策コースのようなものを作るというのも案としてある。それからキャンプ場というのが出たが、そのためにはトイレと水と電気設備、そういうものが必要ではないかと思う。それから、ビオトープなどができるので、魚釣りがしてみたいというのもあったし、やなを作って鮎を取ったりすることも、人が集まって賑やかになるのではないかという話もあった。それから、旧総合支所の跡地利用という話が先ほども出たが、どの程度取り壊されたりするのか全然わからないが、駐車場とか道の駅のようなものにしてもらって、人が集まりやすいようにしたり、川では、水性生物という話もあったが、私は岩石とか結構興味があって、昔は蛇紋岩というのが徳地に出てすごく流行ったらしいが、そういう貴重な石もあるそうなので、子供たちに対するそういった学習もできるのではないかと思っている。観光と、それから教育と、先ほど文化もあったが、そういうものが全部融合しながら、一体的な地域がすごく賑やかになるような、もしくは人が集まったり、地元の高齢者も健康器具のようなもので、佐波川に高齢者の運動ができるというか、ちょっとした高齢者が体を動かせるようなそういうものも整備してもらったらいいいのではないか、ただそれが出雲合橋の周りだけで出来るかとなると、A班と一緒に、整備して、どの辺にどういうふうにするかということを考えないといけない。それから、もう一つ思うのは、単に全体的にそうするというのではなくて、例えば、ここまで歩いたら何メートル、何キロある、それがどれぐらい消費する、健康にどうであるとか、そういうのもどんどん紐づけていくと面白いかなと思っている。そんな感じで夢はどんどん広がっていくという感じである。

B委員 僕が子供の頃には出雲合橋の下で泳いでいた。泳ぐという話はグループの中でアイデアとして出なかったのか。

C委員 泳ぐというのももちろん出ている。ただ、やはり危険で、遊泳禁止というのもあるので、どの程度のものなのかというのがあろうと思う。前も言

ったと思うが、安全に遊泳できるようなところを川の中に整備してもらって、ここから向こうは危険なので行ってはいけないとかという形になろうかと思う。

B委員 実は北海道の旭川というところはすごく川が集まっていて、そこにかわまちづくりなどで浅いプールがいくつもあって、小さな子が遊べたり、流れるプールもある。実は佐波分校にはプールがある。旭川と一緒に、小さい子から、本格的に泳ぎたい人まで全部ここにある。それを生かさないかというのがある。旭川まで行った人たちは、プールがあるところを自転車で移動する。サイクリングロードはちょっと外れているが、同じように物事を考えていくと楽しみ方はいっぱいある。かわまちづくりでは水ということが一番大事なので、水と触れ合うということをいろいろな形で作りこめたらと思う。出雲合橋の下で橋脚の間を泳ぐというのが、小学生の泳ぎを覚える第1段階だったので、そんな水に触れる楽しみを危険のない範囲でやることは、いろんな手段がとれるのではないかと考えている。

A委員 前に出してもらったものに水遊び場というのが入っている。

C委員 水遊びといっても、ターゲットは誰かという話も絞っていったらいいと思う。例えばよちよち歩きの子なら公園に噴水プールがあったら喜ぶ。逆に大人だったらもう少し深くしてとか。いろいろな考え方というかそれは出来ると思う。

A委員 子供たちに聞いてみるのも手だと思う。それを参考にするとか。

C委員 私自身が高齢者支援をやっているので、健康づくりに思いが強くあり、健康に過ごせるようにとか、あとは外に出やすいようにとか。たくさん人が集まる場所というのは、地元の人でも行きやすい、出やすい、行ってみようかと思える。もちろん、外部からも来ていただくのもいいなと思う。

A委員 バスターミナルのある徳地の中心、人が集まりやすいところから出雲合橋が一番近いので、ひょっとしたらバスで来られたお年寄りが散策してみようとしたら、出雲合橋までだと思う。

- F委員 今まで佐波分校の話がでているが、私が埼玉の方にいたときに、スポーツ少年団とか中学校の校外講師とかをやった経験があり、これから夏になると、子供は合宿と称して集団生活をするのが結構楽しいらしく、参加率がすごく高い。わんぱくクラブとかそういう名前をつけて一般から募集したりすると結構参加者がいる。埼玉から、茨城とか新潟、長野のほうまで施設の受入先を探してイベントをやっていたが、なかなか場所がない。体育館や、まさにプールや格技場などの施設は、民宿とかはあるが、使わせてもらえる施設がない。そうすると施設は施設でどこかに交渉して、一定期間借りるようなことをしないといけなくなる。佐波分校にはグラウンドがあって、体育館があるので、そういう合宿施設、子供から大人まで使えるような施設として残してもらえれば、利用者は多少あるのではないかと今聞いていて思った。
- A委員 先程、ある意味ここを中心拠点にしたいという話があった。だから公の既存の施設では限界がある部分や、なかなか人を呼び込められない部分、佐波分校を、気軽に寄りこめるように、利用しやすいようにしたいということも入っていると思っている。
- B委員 今言われたようなことも含めて県に提案しているが、要は県がどうするか次第で、あれを売ってソーラーパネルを並べるようになったら徳地はもうお終いである。
- A委員 そうならないように、案をいろいろ出している段階である。有近さんが言われた案も一理ある。いずれどうなるかはわからないが、自分たちとしてはこういった思いがある、こうしたいという思いを県にぶつけていけないといけない。
- J委員 佐波分校が宿泊施設として認めてもらえるかどうか。認められなかったら宿泊は絶対できない。
- A委員 いっぱい課題はある。
- B委員 友景旅館もあるし、国少もあるし、大原湖も寒いのに泊まっている人がいっぱいいる。だから、徳地にあるいろいろなものを組み合わせればいろいろなことができるような気がする。

【C班】

G委員

C班は佐波川と島地川の合流付近になる。まず重源像があるところだが、あそこが道路で寸断されている。木がある方と塔がある方。あれが寸断されているのは勿体ないというのがあって、市道と県道の付け替えが出来ないか。2パターンあって、塔の後ろの中島さん家の前のほうに付け替えるか、ねむの木の隣からアパート方面に向かって道をつけられないか。そうすると、上のスペースが結構まとめて取れるようになるので、そこに公園などが作れるのではないかな。それから、防府方面から上がってきた時に、杉とか木が生えているが、結構あれが影になって徳地の全貌がぱっと見えないので、木の伐採をした方がいいと思う。ある程度開けた状態で徳地というのが見えてくる方がよい。それから、島地川の方の土手を降りたところに柳があるが、これも管理が難しいので、今後どういうふうに使っていくかということもあるが、伐採してもいいのではないかな。それから、市道のほうに横断歩道がなく、渡るのがとても危ないので、横断歩道をつけたりできないか。それから、佐波川の堤防下に駐車場があるが、もう少し駐車場を拡充して、止められる台数を増やした方がいいのではないかな。それから、玄関口になるので、案内板があるとよい。徳地の歴史だったり、文化だったり、食べる場所だったり、遊べる場所だったり、いろんな内容があるといいなと思うし、それこそ防府からだけではなくて、阿東や周南の方から来ても、何かあると思わせるような案内板の表示の仕方だと、ここで止まって、今日は下に降りようか、山口方面の二の宮の方に行こうとか、島地の方に行こう、八坂の方に行こうという話になるかなと思う。それから、重源像と塔があるが、もしあそこを公園にしようと思うと、真中にドーンと像があるので、これを移動させてもいいのではないかな。どこに移動させるかは検討していないが、あそこを大きく取ろうと思うと、像はあそこではなくても、モニュメント的なものなので支所のあたりでもいいだろうし、他のところでも考えられるかなと思っている。そうすると、景観も大分変わってくると思うので、例えばここを遊ぶところにしたとしても、影になったりということは減ると思う。それから、合流部分で、カヌーとか、サップと言ってボードの上に立ってオールで遊ぶスポーツがあるが、それができるといいなと思う。佐波川のほうだと入っていく距離が短いので、結構持って歩かないといけないが、島地川のほうだと、カヌーを持っていったりとかというのは短くて済むかなと思うので、こちら側にカヌーとかサップのボードが下せる場所ができると面白いかなと思った。それから、佐波川の堰、下庄方堰だが、あそこに水遊びの出来る河原、スペースがあ

ると子供達も遊びやすいかと思う。あそこは降りるのがなかなか難しいので、階段を作ったり、スロープみたいになっているといいかなという話があった。それから、先週の金曜日に青年部の研究会があったので、青年部の方にもどんなのがあったらいいかという話をしてみた。急に話をしたので難しいところもあったが、何点か情報共有ができたのでご紹介させていただきたい。佐波川の左岸、今の土手、出雲合橋から北側は車も入れるようになっているが、あそこをウォーキングされる方とか走られる方、自転車の方がおられ、車がくると危ないので、歩道スペースが色つきであると、歩行者が歩くというのがわかりやすいかなと思うので色を付けてほしい。それから、島地川沿いだが、川沿いに道があるがよく整備されていなくて、口ハスまで自転車で行けないというのがあるので、島地方面まで川沿いが自転車で行けるようなサイクリングロードができないかという話もあった。それから、出雲合橋付近だが、平和タクシーの裏、先程旧総合支所の活用のところでもあったが、今、堀製材が建物を壊して広がっている。あそこを市のほうで買ってもらって、大きな公園ができないか。それこそ水が近くにあるし、水を引っ張ってきて、公園内で水で遊べるような公園内容にならないかという話もあった。もちろんメバル公園のように防災の設備があったりというのも視野に入れて、ただ広い公園を作るのではなくて、そういう部分も含めた上で目玉になるというか、誰でも来やすいようなものができるかという話があった。それから、北野橋の方面だが、これもサイクリングロードがあるにはあるが、サッカー場までドーンと続くような綺麗なサイクリングロードがあると、八坂のほうも行ってみようという話になるし、サッカー場にBASEもあるので、そこで休憩したりとかが週末にできるのではないかということで、やってほしいという話があった。

D委員 カヌーなどで競争するのに、沖の原に向かっての佐波川を活用してのレースなどの可能性はあるか。

G委員 面白いと思う。自分たちで筏を作らせて競争したりしても面白いという話も出た。そういうのも出来るかと思っている。

B委員 たまたま小鯖の道頓堀のところで、シティサップというのをやっていた。普通の川なので、せき止めているところは流れがゆっくりで、たっぷり水があり、自分たちが作った筏であればついていけないといけませんが、シティサップというのは、丸形とか四角型とかあるので、その上に子供でも乗っ

て遊んでいる。カヌーレースみたいなものもあっていいと思うし、お年寄りとか子どもでも、だれでも乗れて楽しいのもいいかなと思う。

A委員

看板を立てるということで、奇兵隊ゆかりの寺を巡るロードマップというか、そんなものがあったら喜ばれるかと思う。要はあそこは玄関口なので、まさにあそこからどこに行こうとなった時に、みんなが興味を持ってもらえたらありがたい。そういう看板が立てられると面白いと思う。お手元の資料の2枚目以降に、防府市のかわまち事業の整備概要がある。みなさんにはいろいろなお話をいただいた。身近な例でいうと防府市。いずれはこのような形でまとめられていくのではないかとということで参考に見てほしい。

藤田課長

防府市が作ったかわまちづくり計画書をそのままコピーをさせてもらった整備概要というものだが、14、18、21ページの3ページが、最初に計画を作られた部分である。エリアとしては新橋から元橋の上流側、総合堰という大きな佐波川堰があるが、そこから取水をして防府市内に水を分配するような施設がある辺りまでが第1期というか、一番最初にかわまちづくりの中で計画を練られたエリア。その後、25ページとか29ページのエリアにどんどん計画を広げられていった。一つは玉祖のエリアというか華城のあたり、もう一つは大崎橋という華城のところ、新しい佐波川に大きな橋が架かっているが、その辺りとか、その下手の古祖原地区、右岸左岸のあるエリアが、上流でそういうことをやっているということでぜひ自分たちのエリアもという話で、防府市の方で変更をされて計画を広げられているエリアである。お手元に配っている資料の「ソフト施策の個別施策計画」が一番大事になってくるところだが、エリアを指定してここで何をしていくのかということで、防府市が既存の川を使っているんな団体がやられているものプラス、この計画によって整備がなされた後何をやっていきたいかということ、協議会の中で話をされたことが書かれている。従来徳地のエリアでもやっている一斉清掃とかも当然イベントの中に入れられているし、出雲地域づくり協議会が実施しているウォーキングなどもそのようなものも一つであるし、従来でいうと、佐波川の花火。徳地の花火大会といえば出雲合橋の上流側で打ち上げをされて、徳地の中で一番大きな集客のイベントであったということは皆さん御存じのとおりだが、今は、冬のイベントということで、行って美夜の実行委員会の方々が、徳地エリア全体を対象にイルミネーションの飾り付けや、街を明るくする、人を呼び込むというようなことをやっていた

だいている。佐波川の合流点というか重源像あたりの土手にもかなりの飾り付けをされていたのを皆さん見られたと思うが、既存のイベントは、当然そういう形でそれを続けていただく。先ほど皆さんの発表の中にあった、実現が可能なものをやはり計画として上げていくことが、この計画を作り上げていくという部分に繋がっていくことになるかと思う。資料としては防府市がこれを計画として出されたことになる。ソフト施策の中に、周辺マップ作成というのがあるが、これは市としても、徳地エリアの中で、なかなかそういう部分が十分に出来ていないところがある。新しくこの拠点施設もできた中で、周遊マップとかを今後検討していかなければならないと思っている。その中でさっき歴史的な位置づけも云々という話もあったし、この出雲エリアの中にも、先ほど言われた奇兵隊にからむような史跡もあるし、そういうのを有効に使って、マップの作成もまた検討していきたいというところではある。

A委員

要するに我々としては、33ページ以降の「ソフト施策の個別施策計画書」というものを、既存のもの、取り組まれているもの、例えばイルミネーションなど、そういったものをやっているというアピールをしていくということが大事なことであり、同時に、これからやりたいこと、今いっぱい出てきたもの、これを防府市の例のように計画として入れ込んでいくことの作業がこれから求められている。これがないと、ハード面には移ることができない。我々の希望が少なければ少ない分、ハード面も縮小してしまう可能性があると思う。もちろん我々も今夢を述べているところもある。我々はこういうふうに思っているというところを、市又は国のほうに指し示して三者で協議し、より実現可能なものに絞っていくという作業が必要であるが、その上でこれが出来上がってくるという訳である。そういう捉え方でいいと思う。今日はいろいろ出してもらったが、これをどういうふうな方向に持っていったらいいのか。

国交省

私のほうから現実に引き戻す話をするが、各班のいろいろな話を伺って、解決しないといけない課題がそれぞれあるというふうに感じた。例えばA班だと、要は佐波分校がどうなるのかというところで、多分大きく方向性が変わってくるというところが非常に課題だと思う。B班については、旧総合支所の跡地利用、ここが拠点とどう結び付けるのか、まちづくりとどうするのか。ここに関しては、河川内の利用と旧総合支所を結び付ける必要がない部分もあるので、そこでどういうふうにかわまちの事業をスタート、展開していくのかというところが、今後の整備かと思う。C班は、県道

と市道の道路改良、ここが改良しないと、その上の公園化というところの、広く使いましょうというところがスタートしないので、どちらも行政サイドで何かしらの判断が必要かなと思ったというところと、それから、かわまちの全体的なスケジュールの話を皆さんと共有しておかないといけないと思っていて、多分最初に話を持ってきた頃は、年2回ほど登録のチャンスがあったが、昨年度から年1回にチャンスが変わっている。登録をする手続きは、前年度の大体9月から10月ぐらいに、本省が、かわまちの手を上げるような計画の場所があるかということで、まずプレ段階だが、手を挙げるタイミングがある。最速だと、令和5年の10月頃までに、前回お見せした様式Bを作るのが、9月ぐらいのタイミング。そして1月ぐらいに、実際申請をあげるのかということで本省と協議をするが、その時には概ね申請書の様式がある程度整っている段階で本省の方と協議をする。実際の申請書の手続き自体は、4月から7月ぐらいの3ヶ月ぐらいの提出期限があって、8月に登録をされるという形になる。というふうに、今かわまち協議会で議論いただいている内容を取りまとめないといけないというスケジュール感の話もちょうと頭に入れていただいた上で、佐波分校の跡地利用がいつ決まるのかとか現実的なところをちゃんと見据えて、私は最初から否定するつもりはないので、基本的にはそういう思いがあるということで調整をするということでもいいと思う。かわまちとしてスタートをまずしておけば、防府市の例を見ていただいたらわかるが、1回変更している。かわまちとして、まずは一番問題が解決しやすいような旧総合支所の跡地の利用を抜きにして、かわまちで出雲合橋のところだけでスタートしようかみたいな議論をして、協議が県道市道の付け替えだったりとか、上流の佐波分校のところ、事業の方向性が本当に決まるということになればそこに追加をしていくというやり方もあるだろうし、やり方も一つではないと思う。なので、まずはスケジュール感というところも頭に入つつ、いろいろできることはある。ただ、最初のお話の中でも、観光庁のDMOという話もあったし、NPOとかそういった話もあるので、そこをどう絡めていくのかということや、母体の作り方をどうするのかということも、協議会の中で議論いただければと思った。どちらにしても行政である程度判断をしないとイケないものが多々あるのではないかと考えているというのと、今話を聞いた中で、もう一つ、これもマイナス側の意見になり、一応立場的には言わないといけないが、管理の話。最終的な、あとこれをどう維持していくのか、管理していくのか。どう利用していくのかという部分がもう少し必要かなと感じている。先ほどNPO法人を立ち上げてやったらできる気がすると言われていたが、そこで本当に受け皿

が作れるのかとか、そういう議論を今後していく必要があると感じている。防府市だと河川港湾課と都市計画課がそれぞれ占用されて持っている。例えば下手の佐波川の小野地区の水辺の学校がある。あれは環境事業でかわまちではないが、平成15年ぐらいからやっていて、底地自体防府市が占用している。河川プールの例では、本橋の上流側にジャブジャブ池がある。あれも平成7年頃に、かわまちでも何でもないが、あそこも公園と一体で市が占用している。ジャブジャブ池自体はあそこだけ国が管理しているが、一般的には河川内プールとかそういうところで河川管理上必要なものにならないので、なかなか管理まで難しい。そうになると占用してもらえる母体があるかどうかということになってきて、そういったところの管理をしていくというところの視点も必要かなと感じた。

A委員 いくつかの課題が見えてきた。A班は佐波分校のところ。これは行政が絡んでいる。見通しを見据えてやっていく必要があるということ。B班については、旧総合支所とどう折り合いをつけるかということである。C班については道路の付け替えのこと。これによってまた変わってくるだろうというようなことがあった。そういった課題がひとつあるという話。それから今後の予定。お聞きしたいが、登録に向けて来年の5月10日頃までに手を挙げるということか。

国交省 手を挙げるのは今年の9月とか10月くらい。プレで手を挙げる。最速で登録することになれば、そのくらいになる。お配りした中に様式Bというのがあったと思うが、要は何をどこでどんなことをするかというイメージ。

A委員 とりあえずイメージでよいのか。

国交省 イメージでよい。計画書の細かい内容とかはまだなくてもよい。

A委員 やりたいという思いを伝えるのか。

国交省 思いだけでもいけないし、具体性がある程度必要となる。翌年の1月くらいに本省からヒアリングがある。その段階で申請書の形にある程度はなっているが、ここはこうなのかとか、もう他に紐づけするものはないのかとか、いろいろ法律的な整備とか制度的なものとか、計画との紐づけとか、そういったところをかなり細かく見られる。ここをクリアしないことには申請を出してもということになる。申請は市長名で多分この協議

会から出すことになると思う。提出の最終が7月だが、6月くらいまでに申請を出すつもりで動かないと、申請期間が4月から6月くらいだと思う。それで8月登録。登録を受けたらもう事業化になる。うちの方が登録に向けて事業評価というのをやる。多分皆さんのお宅にも何度か届いたことがあると思うが、環境とかのアンケートをとる。要は国とか市が予算を投じるが、それに対して、アンケートの結果とか皆さんの声から、事業効果がコストよりも上回っているかというチェックをする。それから事業化という流れになるので、この辺も多分、早ければ今の話だと、来年か、再来年ぐらいにしないといけないという流れになる。まずはヒアリングに向けて、どこが判断できるのかということ。県が絡まないといけない分校の話があって、その答えがいつ出るのか。今年の夏にもう答えが出るという話であれば、ここも絶対取ると言って動けばいいと思う。総合支所の跡地もそう。方針がいつ出るのか。県道と市道との付け替えもそうだが、そういったところが、行政側がいつ判断するのかというところが正直あるので、そこをやっぱり見据えて、計画を出すタイミングというのを明確にしていくというのが作業としてはプロセスとして必要。言われている内容は非常に夢があって、人が入ってくるかなという感じでいいなとは思っているのですが、あとは個々に具体性。そこにいく判断があって、そこに事業をくっつけようと思ったら、それなりに制度があって、お金を取ってくるための段取りがある。かわまちの事業は5年間の計画なので、どこにはまってもよい。国の事業は5年間のうち、来年度に申請できたとして、令和6年度スタートで、令和10年度までである訳なので、令和8年に入っても、9年に入ってもよい。市の事業も同じである。ハードがどこに入るのとは関係ない。5年間のうち、それまでは設計をやるとか、看板を先にやるとか、そういうことができるので、そこは行政が考えないといけないということだが、現実には引き戻す話で申し訳ないがそういう観点も必要という話である。

A委員

今後考えないといけないのは管理のことである。その辺りも十分に話し合っておかないと、いずれ夢は現実に帰るということである。そういう話もいずれしていかななくてははいけない。大体がこういった流れである。決して簡単ではないが、一步一步そこまで近づけていかないとはいけないと思う。今後の予定をどうするか。今日はいろいろ提案してもらったが、まだまだ課題もある。とりあえずもう少しまとめてみたい。様式Bには、どういう目的の事業で、どこにどんなことをするというのがざっくり書いてある。そこに持って行くまでをやらないといけない。時間がかかる

かどうかというのは、判断をどうやるかということである。今後のそういうところは市にまかせるということでよい。

藤田課長 そうなると思う。

A委員 とりあえず我々がいろいろなものを出した。私ももちろん住民サイドだが、いろいろな夢を描いてしまう。今度はそちらにお預けして進めてもらってもいいか。これからは厳しく現実を見据えていかないといけなくなるが、協力し合って、管理のことも含めてしっかりと話が進んでいけばいいと思う。先ほどあったこのスケジュールをよく見据えながら、粛々と進めていくということである。

(2) 連絡事項

① 協議会の活動報告について

藤田課長 このかわまちづくり協議会を今日で6回開催したが、地域住民の皆さんからすると何をしているのかがなかなか見えてこないというお話が先日もあった。何らかの広報媒体で、徳地地域の皆さんに、こんなことをやっているというのをお知らせすることをしていきたいと思っている。先般も言ったが、市のホームページに「かわまちづくり」と入れてもらおうと、4回目までの議事録と写真などが掲載してある。これは、全ての方がこんなことをやっているというのを見ることができるが、徳地の皆さんに知らせるものということで、地域づくりとも交流センターとも調整はまだしていないが、地域広報紙のふるさととくちに掲載をしていただくように、3月末は厳しいので、4月号くらいになるかと思うが、そこでお知らせをしていきたいと考えている。

② アンケート調査について

藤田課長 先般、金子さんの方からご紹介いただいた、防府市がアンケートをとられた件であるが、お手元にお配りしているのが、防府市がとったアンケートそのものである。地区名だけ徳地に変えてみたが、このようなアンケートをとられているということである。防府市は、これを2000名程度不作為に抽出されて、直接郵送で戻してもらったというアンケートの仕方をされている。うちは郵送などでやるのは厳しいので、ある程度団体さん等もおられるし、地域づくり協議会を通じてアンケートを配らせても

らって戻してもらうというような形をとるのがいいかと考えているが、その辺は、協議会の皆様のお考え等もお聞きしたい。全地区、全戸に対してこれを配るといって、結構回収に期間もかかる。配布したアンケートをそのまま配るということではない。これは、今日皆さんに、アンケートの対象範囲とか、配布先をどのようにするかなどの案というか、たたき台として見せるということで配布している。もう一点は、子供たちに対するアンケートということだが、それについては防府市からまだもらっていないので、どういうふうな形のアンケートをとられたかというのがまだわかっていない。先般は回収したものを絵で見せてもらったが、あったらいいなとか、子供たちに対してこういうものが川にあったらいいなというようなものを絵で書くという形であった。これは学校を通じて配ることが出来、アンケートの配布と回収は学校を通じてということでやっていくのは出来ると聞いているので、どういうものを子供たちに対して配るかをご相談をしたいと思う。その前段で、地域アンケートは、このような形のものでなくて、こういうものをまだ入れたらどうかとか、対象としてどの範囲まで広げるかというご意見があったらお聞かせ願いたい。

G委員 地域アンケートだが、出雲地域づくりが、かわまちに対するアンケートを一度実施している。その際に、治水のことを先に考えてほしいというのがあった。治水をまずするという前提がない地域に配っても、治水にいつてしまって、かわまちづくりというのが伝わらずに回答されてしまう可能性が高いので、なかなか地域アンケートは難しいかなと思う。あと、徳地全体といいながら、まだコンパクトなことになっているので、他地域には伝わりづらいというものもある。それよりは、子供とか、普段聞かないようなところを対象にしてアンケートをした方が、よりかわまちづくりのほうに寄るといって、川に寄るアンケートになるのではと思う。

A委員 国交省がやったアンケートもあるし、我々がやったアンケートもある。これはどちらかというと、やるかやらないかというところでのアンケートだったが、自分が思うのは、今我々が考えていることを聞いてみるというか、ここで話し合ったこと、ああしたい、こうしたいということを尋ねてみたいのだが、どうであろうか。

G委員 アンケートにそれを全部載せるのか。

- A委員 全部載せるかどうかは別にして、絞ってもよいが、どうだろうか。
- G委員 住民に最初から全部説明した上で考えてもらわないと、こっちの欲しい答えは出てこない。ただ、膨大な量の情報を住民の方に伝えるのはかなり難しいと思う。自治会ごとに集まりがあった時に話してもらって、その情報を吸い上げるというのはあるのかもしれないが、一人一人というのはかなり難しい。
- E委員 自治会の会長は今から改選になる。1から10までこれを説明することになると大変なことになるので、簡単でいいと思う。こういうことをやっているということを自治会長に伝えて、3月末か4月の自治会の会合で話してもらう。ちょうど過渡期なので難しい問題はあるが、先ほど国交省が言われたスケジュールがある。スケジュール通りに間に合わせるということであれば、ある程度単独で走らないといけない。ある程度のものが出来れば、子供は黙っていてもそこで遊ぶ。1から10まで積み重ねていくのであれば、来年度4月から6月にかけてというのは完全に不可能という感じがした。それと、あと一番大事な維持管理。物を作るなら、初期投資は予算をとれば簡単なことだが、例えば公衆便所一つにしても、便所を多く作るのにこしたことはないが、誰が掃除をするのか。掃除をするのにいちいち市の予算をとってやるのか。そうすると地域の住民、誰かがやらないといけない。ずっと地域の人でやってもらえるのか。後ろを振り返ったら誰もやっていないということになるような気がする。その辺のところも含めて、現実的な、維持があまりかからない、予算があまりかからないで、みんなが喜ぶようなもの。現実に戻して大変申し訳ないが、そういった観点も必要ではないか。それと佐波分校の問題とか、旧支所の跡地の問題とか、県道市道の問題。これは、地権者の問題もあるので、私も本当にやるのかなと思う。どこがだれの地権か、その辺のことは相当時間がかかるので、これと一緒にタイアップしてというのは難しい。かわまちだけで先にやって、それに加えて少しずつやっていくのでいいのではないかと、皆さんのご意見とか聞いていて思った。
- B委員 管理する団体をどうするかということだが、起ち上って数年経った頃には、ここにいる人はほとんどいないと思われる。要は、若い人たちを巻き込んだグループを作った方がいい。かわまちづくりで出来上がったものを管理する。それは、多分、いろんな団体を組織横断的に構築するの

が良さそうな感じだった。そうするとNPOを立ち上げた形のほうがいいのではないかと思う。それから、Aさんが山口市にまかせるようなことをさっき言っていたので、あの一言でもすごく不安になっている。管理団体を立ち上げて、物は出来たけどあとは知らないということにならないように、若い人を巻き込んでやってもらいたい。きっちりタイムスケジュールがあって、国交省の方が言われたように何月というように決まっているので、遅れたとか言わないようにお願いします。佐波分校の話が出るが、僕は佐波分校がうまくいったらすごいことが出来るというだけで、北野橋のところだけやることは当然できる。そういうことでタイムスケジュールは、例えば出雲合橋を最初にやって段階的にやるというものもあるし、同時にやるのがいいなら同時にやればいい。文科省のみんなの廃校プロジェクトというページがあるが、その別の事例を見れば、廃校になって何年かしてスタートするところもあるが、実は廃校と同時にスタートしているところが結構多い。自分は、今佐波分校のCSコーディネーターで、地域探求の授業で、来年度は放置竹林をやろうとしている。廃校になった時に県がどういうふうにしてくれるか、どうジャッジするかにもよるが、うまくいったら、2年後にはもうスタートできるという形をもくろんでいる。分けるのと一緒にするのと両方考えている。

A委員 さっき言ったのは進め方、進行を市にお願いするということで、誤解のないようお願いしたい。アンケートの話だが、アンケートはあくまでも参考。アンケートをやったからアンケートどおりにしなくてはいけないというのではなく、我々が今考えつく判断材料にしたいということなので、あまり難しく考えなくてよい。我々が今から考えるなかで、有効なアンケートとはなにかという話。同じことを何回も聞いても仕方ない。有効なアンケート、本当に必要なアンケートを考えたい。広報はどうするのか。

藤田課長 広報は活動の状況、かわまちづくり協議会がどういうことをしているかについての広報をする予定。最初のアンケートは、やるかやらないかというアンケートだった。このアンケートは防府市も取り組んでおり、整備する上でどういうものがあたらみんなが利用するか、川に親しんでいただくうえで皆さんが望むものはなにかという位置づけのアンケートになっている。前に向いていくアンケートではあると思う。

A委員 アンケートは、対象を絞ってやるか、全住民を対象にするかということである。

- 藤田課長 協議会の動きが地域の皆さんに全て見えている訳ではないので、他地区の皆さんに配っても戻ってくる数が少ないだろうし、興味のない人からは全く戻ってこないということになるので、出雲地域を限定としてやるということになるかと思う。
- A委員 小学生からアンケートをとってみたいという気持ちがある。団体でやりたいというところがあれば、それでもいいと思う。
- 藤田課長 対象については、もう一度、会長なり副会長と調整をして範囲を決めさせてもらいたい。
- H委員 アンケートはやはり出雲だけという訳にはいかないと思う。徳地全体に、こういうのがあるから来てほしいと言わないといけないと思うので、全体に、以前やったものとは違うものを、なんらかの方法で現在こういう話があるということから入ってやればいいと思う。全く始めからというわけではなくて、前の続きになると思う。
- A委員 国交省がやったアンケートと、我々がやったアンケートの両方も踏まえた上でのアンケートになると思う。ダブっても仕方ない。我々もいろいろ会議をやってきた、それを踏まえて有効的なアンケートになろうと思う。
- I委員 いつかは、こういうプロジェクトが進んでいるということを知らせることは必要だと思う。
- A委員 そのアンケートの中で、ここまで今やってきているというお知らせも入れていいと思う。
- 藤田課長 依頼文を作るので、その中に、こういう話で協議会を1年近くやってきたということを入れた上で、より皆さんの意見を聞くためのアンケートをとるという形で進める。
- A委員 そういう形で、そして佐波川は徳地の中を流れているので地域全体にアンケートをとりたい。
- 藤田課長 そこを踏まえてもう一度会長と副会長とよく調整をさせていただく。アン

ケートを出すとすれば3月の中旬くらいかと思っている。回収時期等を考えると2月中に出せれば非常にいいと思う。

A委員 アンケートの結果は4月の会議で間に合うか。

藤田課長 回収時期をそう設定すれば、それで結果は出ると思う。

A委員 その流れでいくと次回は4月の後半くらいにしたいと思う。

C委員 さっきのスケジュールで、今年の9月には手を挙げて、様式Bを提出する。アンケートが3月か4月に出てきて、それでまた協議して、様式Bが間に合うのか。

藤田課長 区域の絞り込みは、今三つの位置をだいたい絞り込んで話をしているということで、島地川からの合流から上を見据えたエリアという形の中で行くかなと思う。

国交省 3箇所全て出さずに、出来そうなところに絞れば出せるのではないか。

A委員 場合によっては、現状や行政との絡みも踏まえて、確実に出来るところを対象にして出すという手もある。

C委員 現実、なかなか県道の付け替えとかは結論が出ないと思う。まずはできるところから立ち上げてスタートする。

A委員 そういうことも話し合った上で、現状やれるところからやっていく。

C委員 NPOも立ち上げたほうがいいという話だが。

J委員 この前の土曜日に、商工会青年部の若い人が市長と会っていると思う。ここにいる人はかわまちが出来る頃にはいないかもしれないので、そういう人を抱き込んで、担ってくれる人を確保しておかないといけない。兼業でNPOの会員になれる。仕事があるからできないというのはない。NPOを起ち上げたら、組織があるので、例えばさっき言ったトイレの掃除とか委託で受注していくらでもできる。1日いくらとかで維持管理してもらえる。例えばシルバーに頼まないといけないところを、仮称出雲

のNPOが受けたら、お金が降りてくる。いろいろなところからお金がくる。

A委員 この中にも役割がある。我々のように橋渡しをする人間もいるし、将来を担う人間もいる。国交省からスケジュールの提示があったのでそれに向けてやればいいし、その一環としてアンケートもやっていきたい。

藤田課長 内容については、もっと協議していきたい。本日の会議についてはこれで終了したい。次回は間をおいて、4月にご案内させていただきたいと思う。それまでにこちらで整理できるものは整理してお示しをしたいと思っている。